

ウナギの放流について



ウナギ資源の増大を目指して、ウナギの放流が行われています。
ウナギ放流に関して、現在得られている情報をまとめます。

ウナギ放流の効果



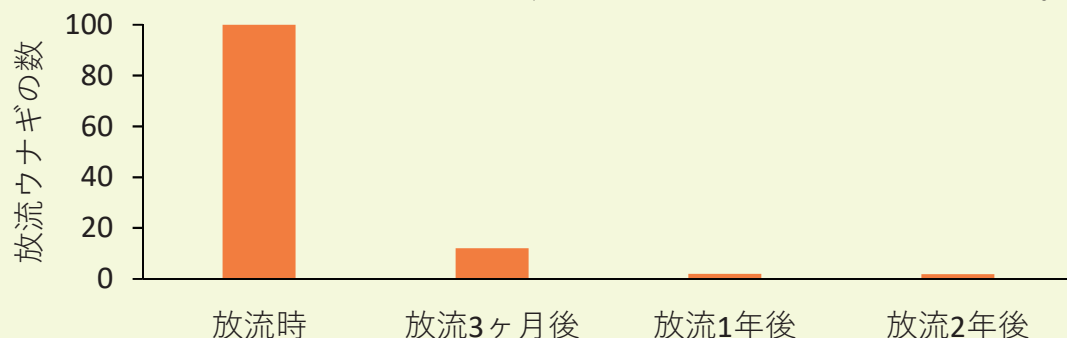
- 放流したウナギが産卵して次の世代を残すことができるのか、明らかにされていません。
- 放流による漁獲量増大の効果は、明らかにされていません。

放流後、砂に潜って隠れるニホンウナギ
標識のため目に色がついている

放流ウナギの生き残り

<放流後のウナギの数の変化>

鹿児島県貝底川・静岡県波多打川・福井県三本木川・青森県長沢川での調査結果
放流時のウナギの数を100として、その後のウナギの数を示している。



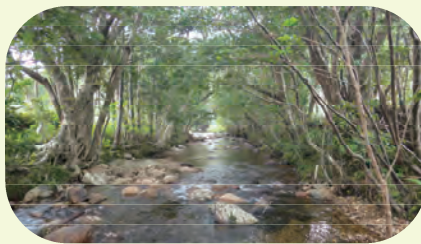
約30gの養殖ウナギに標識をつけて河川に放流し、その後のウナギの数を調べました。放流時のウナギの数を100匹とすると、2年後には5匹まで減少しました。

この資料は、水産庁「効果的な放流手法開発事業」（平成28～31年度）の成果の一部です。
ウナギの放流に関する情報については、以下のURLもご覧ください。

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/saibai/pdf/jyogen.pdf>

ウナギを放流する場所

- エビ・カニ・小魚などウナギの餌が豊富で、隠れる場所のある水域に放流しましょう。



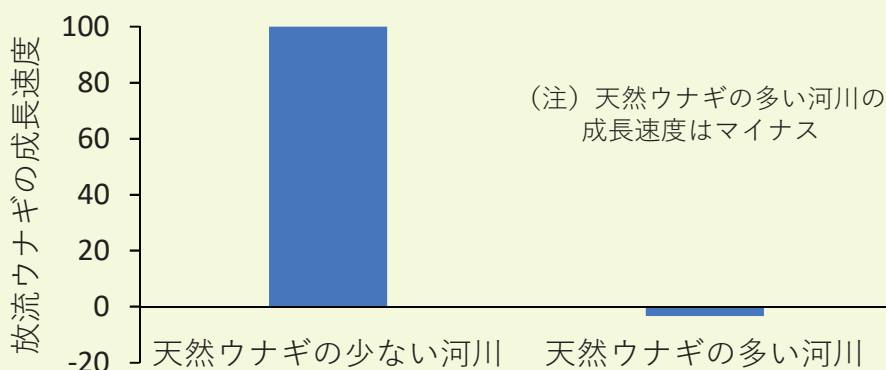
コンクリート護岸された水域（左）と、自然の残された水域（右）

ウナギの生息する環境については、以下のURLをご覧ください
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/pdf/naisuimeninfo-16.pdf>

- 天然ウナギが少ない水域に放流することで、より早い成長が期待できます。

<放流後のウナギの成長速度>

鹿児島県貝底川・静岡県波多打川・福井県三本木川・青森県長沢川での調査結果
天然ウナギの少ない河川（三本木川・長沢川）に放流したウナギの平均成長速度を100として
天然ウナギの多い河川（貝底川・波打川）に放流したウナギの平均成長速度を示している。



- 放流されたウナギは下流へ移動します。増殖を目指す水域の上流側で放流を行いましょう。

放流するウナギの大きさ

- 200g程度まで大きく育った養殖ウナギは、放流後の環境に適応することが難しいと考えられます。
- ヨーロッパでは、シラスウナギまたは数gのウナギの放流が主流となっています。
- 内水面漁場管理委員会による放流の指示数量をキログラムと個体数の両方で示すことで、小型個体の放流が容易になります。